



農業経営再開 マスタープラン

佐藤 一郎

問 経営再開マスタープランについて、どのように考えていくのか。

市長 これからの農業全体を考えたとき農業の持つ多面的機能、多面的役割、地域特性を踏まえながら、岩沼の農業のあるべき方向性を見いだして進めていかなければと思います。

問 土地利用について、どのように考えていくのか。

市民経済部長 東部地区においては、復興交付金を活用し、県営の圃場整備事業は農地90㌥から120㌥区画に整備されます。



10アール区画の西部地区

西部地区は、10㌥区画がほとんどで、不整形の区画も多く、大区画化にする基盤整備事業が今後必要になってくると考えます。

圃場整備の負担軽減策は

問 圃場整備の負担割合を少なくする施策として何か考えはないか。

市民経済部長 市独自としてはなかなか難しいと考えています。国の方では、攻めの農政と言われており、今後何か新しい制度が出てくるのを期待し、情報収集に努めていきたいと思っています。

問 兼業農家は、隣組の応援により、水管理などの環境整備を行ってきた。兼業農家を大事にし、農業の一角を担う人材を育てていくのが一番大事ではないか。

市長 岩沼の農政全般として、次の時代を担っていただける人が現れてくれる農業、つまり夢と希望が持てる農業でなければなりません。次の総合計画の岩沼の農業の柱として定着できればと思います。

◎その他の一般質問

・津波避難



津波避難の 在り方懇談会

佐藤 淳一

問 懇談会開催の目的を伺う。

市長 東日本大震災時、東部地区の方々がどのような避難行動をされたか、それに対してどのような考えを持っていたかを把握し、避難のルールづくり、避難道路の整備などに活用していきたいと思っています。

問 対象となった地区を伺う。

総務部長 東部地区幹線道路沿いの各町内会を対象地区とし、矢野目、林、恵み野、寺島、早股地区で開催しました。

企業との懇談会の開催は

問 避難に関しては地域住民のみならず、周辺企業との意識の共有が不可欠であると考えます。企業との懇談会は開催されたか伺う。

総務部長 臨空工業団地、二野倉工業団地の代表の方と避難ルートを検討などについて話し合いを持ちました。

問 懇談会での主な意見を伺う。

総務部長 ハード面では円滑に避難できる避難路の整備、農道の活用、国道4号を円滑に横断できる

対策など、ソフト面では災害時の主要道路の一方通行化、各地区の避難行動計画の必要性などです。

問 復興交付金事業で避難道路を申請しているとのことだが、懇談会の結果を踏まえて避難路をどのように検討していくのか伺う。

総務部長 市道としては3路線（寺島海岸線、本町早股線、藤曾根線）を要望してきました。懇談会の意見を踏まえ、3路線で十分なのか検討し、交付金事業として申請していきます。

問 避難は原則徒歩とされているが、現実には課題が多いと思われる。どのように考えるのか伺う。

市長 現実として徒歩だけでは難しいので、徒歩での避難と車での避難の両面をしっかりと考え対応できるように、ご意見を頂きながら市としてルール作りをします。

問 限られた財源、物理的要因など制約が多い中で、どのように要望を実現していくのか伺う。

市長 それぞれ仕分けをし、必要なものからスピード感を持って対応していきたいと思っています。